

Question : 最近「循環型社会」の話題を見聞きしますが、「都市の計画や街づくり」での関わりや留意点は？

Answer 昨今「循環型社会形成推進基本法（以下循環基本法）」が、「循環型社会創り」を志向する、国レベルでは他に類を見ない画期的なものとして動きだしています。

その背景は 物質の年間輸出入フローで一目瞭然。つまり8億トンの輸入物質と1億トン輸出物質。輸入の内4億トンが石油と天然ガスで、燃焼で、大気拡散しますが、残り3億トンは廃棄物蓄積されます。この廃棄物の最終処分場残余年数が、平成18年度末時点で一般廃棄物、約15.6年。産業廃棄物、約7.5年分と推定され、特に大都市圏（首都圏・近畿圏）ではまさにパンク寸前、国民生活そのものに大影響を及ぼしかねないここに来ています。

循環基本法（第二条）で「循環型社会」とは「製品等が廃棄物となるのが抑制され、製品等の循環資源利用が促進され、利用されない資源は適正に処分され、それにより天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が低減される社会」と定義しています。

ところが、この定義を「あなたの考える“循環型社会”は？」と尋ねると十人十色。また内閣府世論調査（2001年）では、この「循環基本法」を知る国民は11%、ましてや循環基本法の第十二条「国民の責務」（国民は循環型社会形成に自ら努め、国等の施策に協力する責務）について知る人は、さらに少ないと思われまます。

つまり、国として考える“循環型社会”とは 物質の循環をどの程度優先させ、自然環境との共生をどのように位置づけ、地域産業の構築や街づくりはどうするのかなどの目標を 国民に解りやすく「見える化」する必要があると考えます。その意味で都市はこの表現行為の最前線です。

1980年代、米国の「スマートグロース運動」や今も継続活動している「旧市街地再生バルセロナ・モデル」や「超高層論争のロンドン」に共通するのは、都市計画家や建築家がリーダーとなって、市民を取り込み、彼らの技術で「見える化」する事で、その深度と熟度を深めてきたことです。

我が国の“循環型社会”の「見える化」においても、都市計画、ランドスケープ、建築インテリジェンス技術によって、“循環型社会”を俯瞰できる都市像を提言し、差し迫っている廃棄物処理の解決も含め、次世代に向け逐次、国民総参加での議論が創出できるのが望ましいと考えます。

事務局だより

11月6日(土)に浜松町のコトブキDIセンターをお借りして第5期の定例総会が開催され、引き続きの記念シンポジウムとその後の懇親会も和やかな中に終了しました。

さて、当事務局は11月15日(月)から新しい部屋に移転しました。住所は従来通り千駄ヶ谷三丁目の鳩森ビルですが、302から304号室への移転です。ほとんど同じ間取りですが、造り付けの収納家具を撤去して有効床面積を広げ、常時10名程度の会議が出来るようになりました。有効活用の一環として、今後定例的に「TDAサロン（仮称）」を開催する企画が動き始めています。ほかにも何か面白い利用のアイデアがあれば提案してください。また、近くにおいでの際には気軽にお立ち寄りください。

事務局長／八木 健一

景観ビジネス最前線



東京タワー

ふと見上げる時、そこ下ろすのば、技術の結晶があった。



東京国際空港D滑走路

技術を通じて、



心の豊かさを実現する

平岩塗装株式会社

〒146-0083 東京都大田区千鳥 2-6-17
TEL 03-3759-9198 FAX 03-3759-9164
<http://www.hiraiwa-toso.co.jp>

編集後記

やけに暑い夏と秋のない年でしたがもうクリスマスの飾り付けが始まり、忘年会の予定もいくつか入ってきた。この年末号は毎年総会と記念シンポジウム報告。原稿依頼も慣れてきたが、未だ字数が多くて短縮に苦労している。ポイントは一定にしたいからだ。「景観コラム」は再度＜会員プロフィール＞になりましたがまだ19名分が未掲載です。次号では賛助会社にもお願いする案もでているのですが、この白黒ページはそのためだけに増やしたのではない。皆さんに役立つ「論壇」を掲載するのは何時になるのか？スケッチと文は描き手の希望も多いのだが。（編集委員会）



2010-12-01

目次

- 表紙
絵解きで景観を暴く（絵・文）
／小澤 尚
- 見開
TDA NEWS
特別レポート「第5期総会及び記念シンポジウム報告」
／田淵 照久・井上 洋司
- 見開
海外ランドスケープ事情
「色々なまち」／吉田 慎悟
- 裏表紙
景観文化Q & A 「循環型社会」
／内山 興亞
- 裏表紙
事務局だより／八木 健一
- 裏表紙
景観ビジネス最前線／平岩塗装(株)
- 別冊
景観コラム「正会員紹介 part 2」

景観文化

NPO法人 景観デザイン支援機構 けいかん・きこう <http://www.tda-j.or.jp>



絵解きで景観を暴く

来年は現日本橋の架橋100周年にあたる。空間、時間、仲間の間(マ)を知(チ)る「マチ」の自治への願いもあって、月刊「日本橋」で、連載記事「絵解き双六」を書かせていただいている。「絵解き双六」とは、学生時代、街の将来像の合意形成の手段として、現在の姿と同じアングルで、いくつかの時代の変化の姿を絵に起こし、分析や将来像をつくる一連の試行のあだ名だ。

この絵は、十数年前に描いた現況との一対の絵で、過去ではなく将来の姿のつもりの絵解き図だ。江戸橋から描いた現在の絵は、高架の自動車専用道路のインター下だから、ランプの道路で先は見えない。今は見えない姿からその先にあるものを調べてから地図や距離をたよりに、図に落とすのは無論のこととして、それ以前に、高架道路の処理、地下化であれば、交差する地下鉄道の位置などの地中構造物との整合の確認や、出入り口ランプの位置や道路勾配、排気塔の用地、工費、工法などを想定している。

その作業の途上には、幼かった頃に遊んだ船や蝶の姿、地域で最も重要な小学校の存続に向けて尽力されなくなった連合会長や先輩を思い出しながらもあった。原図はさらりと描いた葉書サイズで、広がることを期待してまずは千枚絵葉書として印刷し配った。見る側、使う側に、失われた間を取り戻し、空間や、時間や、仲間の広がりなどをイメージしてくれればとも願ったが、幸いそれなりに使われ、数年後の2001年に、東京都の「震災復興ランドデザイン」の図版や、知事や大臣へ資料図として、更に、国、都、公団等による「東京都心における首都高速道路の在り方委員会」発足の報道の図としても使われた。次の絵解きは、この絵に見えない下の展開について描いた図を紹介し更に広げたい。

TDA正会員 小澤 尚

TDA NEWS

特別レポート 第5期総会及び記念シンポジウム報告

NPO法人景観デザイン支援機構（以下TDA）の第5期総会が11月6日開催されました。併せて記念シンポジウムが開かれた。今回は「持続する街の景観とその仕組みと現状」と題し、都市環境研究所代表取締役小出和朗氏、東京大学准教授窪田亜矢氏にそれぞれ「英国のCABEと日本のデザインレビュー」「^{ともものうら}鞆の浦での景観論争を踏まえた専門家の役割」と題する講演をTDA理事／明治大学教授、小林正美氏のコーディネートのもと行われました。



第5期定例総会報告

土田旭代表理事より「地方都市、農山村を今後どうするのか、各自治体の現状を踏まえ、TDAが協力できることがあるのではないか」との今後の活動について示唆。

■第4期事業報告

機関紙「景観文化」を4回発行。「景観講座」を6回開催。受講者計243名。「まちなみスケッチ塾」を12回開催。参加者計91名。「デジタルハリウッド大学との連携事業」は先方で体制改変と人事異動が行われつつあり、今後のTDAとの連携活動について協議中。「ネパール・ナウリコット村再生事業」は第3回事前調査を実施。

■定款の変更完了

「国際的な交流・協力事業等を支援する」を事業内容に追加するとともに、電子メールによる理事会を可能にする内容変更が東京都に承認された。

■第5期事業計画

活動を活性化するため委員会等実行体制を確立。「サロン事業（仮称）」を開催。「景観文化」、「まちなみスケッチ塾」、「景観講座」の継続。「ネパール・ナウリコット村再生事業」は現地NGOの設立とその体制づくりを推進。

（TDA理事 田淵 照久）

1 記念シンポジウム 「英国のCABEと日本のデザインレビュー」



小出和朗氏
（前）都市環境研究所
代表取締役

CABE（commission for architecture and built environment）のデザインレビューにオブザーバーとして参加した経験がある。CABEは1999年ブレア政権誕生と同時に都市再生が緊急な課題とされて、アーバンタスクフォースが発足した。その報告書（Towards an Urban Renaissance）で都市デザインに関して専門家が政府／自治体に技術的な提言を行う事が必要とされ、その結果CABEが誕生した。DCMS(メディアスポーツ省)とDCLG(地域社会・地方自治省)からの交付金25億円／年間で運営されている。16名の理事と120名のスタッフで運営され、ある規模以上の建築物はデザインレビューが行われる。CABEは6部門から成り立ち、そのうちの一つがデザインレビューである。代表的出版物"BY DESIGN 2000"の中でアーバンデザインの達成目標を定性的な言葉にして、柔軟にデザインレビューを行っている。

「1：個性……アイデンティティーを持った場所」、「2：連続性と領域性……私的空間と公的空間を巧く区分している場所」、「3：公共空間の質……魅力的に機能する外部空間」、「4：アクセスの容

易さ……たどり着きやすく通りやすい場所」、「5：分かりやすさ……明快なイメージ把握しやすい場所」、「6：順応性……容易に変容できる場所」、「7：多様性……空間質や行動の選択種が多様な場所」

これらの目標設定で行われた成果は、イギリスでの計画が許認可制度故に、その影響力を増している事は否めないが、社会全体のCABE的活動への信頼性の高さに学ぶ事が大きい事を実際のデザインレビューの事例で紹介された。またこの制度の影響は、EU諸国、韓国などの都市政策に影響している。ただ、"優れたデザインが重要であると社会に広めるにあたり、CABEの果たした役割は大きい"とブレア元首相に言わしめた事も影響したのか2011年度の予算がカットされたそう。しかしこの施策の影響は日本でもあり、東京都がデザインレビューを導入している事を最後に触れてひとまず氏の講演は終了した。



2 記念シンポジウム 「鞆の浦での景観論争を踏まえた専門家の役割」



窪田亜矢氏
東京大学准教授

窪田氏は長く^{ともものうら}鞆の浦での景観論争の渦中にいた経験から、専門家のあるべきスタンスを語ってくれた。まず鞆の浦の裁判を

「景観と生活」と考える事が如何に景観問題を語る上での外れであるかを指摘。景観とは生活の上で現れるものと考え、生活の仕方をどのように選ぶか、ライフスタイルの選択そのものが、どの景観を好ましいかを判断する材料になる、と考えるべきであるとし、生活と生活、景観と景観の対立ととらえるべきであるとした。

また鞆の浦での司法の判断は、司法が景観をどうあるべきかを決めるのではなく、地元住民に対して、県、市が十分に代替え案等を提示し地域が主体的に景観を決めていくべきとし、本件でのその提示が不十分であるとの判断をした、としている。

現在これを受ける形で、住民協議会が毎月開かれている。対立する構造の間に入って、代替え案の提示や皆が納得する枠組みづくりを提示する事が、専門家の役割であろうと述べた。同時に、私益・公益の対立は避けるべきものではなく、訴訟自体はこのような対立軸が生まれないと真の公共的な考え方は生まれないとこの裁判の成果と考えていいのではないかと結んだ。



3 記念シンポジウム 「会場とのディスカッション」



小林正美氏
明治大学教授
TDA 理事

「日本では、街の価値のビジョンを市民がしっかりと持っていないようにだが、お二人はどのように考えるか？」との司会の小林氏の質問に対し、「日本では専門家がかかわれる基盤が希薄、景観が皆のものになっていない、定性的な基準が不明確等、問題が多く啓蒙・教育等が必要ではないか？」（小出氏）、「景観は関係性の整理によって創り上げられているが、それを評価する基準がまだまだ出ていない。関係性を整理し、位置づけを行える目を持つ事が専門家だけでなく市民にも期待されている」（窪田氏）と回答。

会場から、「50代や60代が景観論争していても始まらない、もっと若い人が加わるべき」「業界や行政にもっと"勇氣"を持って専門家は発言すべき」「専門家は住民に対しては徹底した脇役であるべきだ」「日本では景観に対するメディアの活動が消極的」等活発な意見が飛び交った。

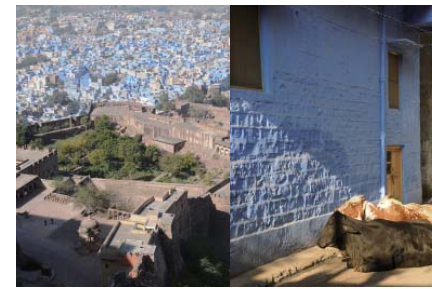
小林氏が、今後TDAの活動でも、一般市民の教育、啓蒙の意味からもメディアへの働きかけが今まで以上に重要、と総括し、TDAの活動方針へも言及が及ぶ充実した講演会になった。（TDA理事 井上 洋司）

海外ランドスケープ事情

「色々なまち」

□**パステルトーンのサルバドール**：ここ数年、JUDI（都市環境デザイン会議）やTDA（景観デザイン支援機構）が企画した海外ツアーに参加している。その中で印象的な色彩で包まれたまちをいくつか紹介してみたい。4年ほど前にブラジルツアーがあった。都市デザイナーの興味はクリチーバとブラジリアに重点があったと思う。しかし私の興味は都市の色彩にあり、日本とは異なる鮮やかな色彩を使ったブラジルのまちに触れてみたかった。その中でもサルバドールのまちで見た色彩は特に印象的だった。サルバドールの色使いは、明るめのパステルトーンで揃ったまち並みでとても魅力的だった。それぞれ思い思いに多くの色相が使われているが、トーンが揃い、さらに窓枠には白が使われており統一感があった。また舗道には石材が使われているが、どのまちに行っても数色の石材の組み合わせでまとまりがある。このような地としての舗道の色彩の在り方がパステルトーンのまち並みを華やかに見せていた。

□**インドの不思議な青いまち**：次はシャンディガール視察に参加した。ここでも私は近代都市計画によって出来た都市よりもブルーシティやピンクシティのような歴史的なまちの色使いにより興味があった。ブルーシティと呼ばれるジョードプルに到着後、早速まちを歩いたが、その日は青い建物は多くは見掛けなかった。しかし次の日メヘランガール城塞に上ると一面に青いまちが広がっていた。この青い外壁は漆喰に藍を混ぜてつくられ




ていると言う。強大な権力を持つマハラジャがこの不思議な青いまちをつくった。青は海や空等自然界では多く見られる色彩ではあるが、赤い林檎や緑の葉っぱのように面色として何処かに定位している色彩ではない。それだけに緑の少ない大地に広がる青いまちはよけいに神秘的に感じた。

□**白い石積みと高彩度色の窓枠**：昨年TDAの新規事業との関連でネパールを訪れた。世界遺産ともなっているカトマンズは、迷路のような路地が張り巡らされており、崩れかかった赤い煉瓦の建物が続くまち並みはとても興味深い。そして最近インドからの巡礼者が増加し、村の姿が急激に変貌しつつあると言うナウリコット村に飛んだ。ナウリコット村の建物は石積みで建具は鮮やかな赤や青で塗られており、8,000m級の山に抱かれている村の姿は神々しくもあった。

世界には色々なまちがある。まちの色はその土地の気候・風土や歴史に育まれてきた。まちの色は地域の風景と一体である。いくら魅力的な色でも安易に他の土地に移植することは出来ない。日本のまちは一般に色彩的ではないが、色々なまちを見ていると、陰影を活かした繊細な色使いは、日本の気候・風土の中でしか育たない、とても個性的な景色であることが解る。


TDA 理事 吉田 慎悟



坪井 善道 Tsuboi Yoshimichi

都市計画, 建築・都市デザイン


日本大学生産工学部建築工学科
千葉県習志野市泉町1-2-1 (〒275-8575)
TEL. 047-474-2505 / FAX. 047-474-2504
E-mail. tsuboi.yoshimichi@nihon-u.ac.jp



●左：第12回(2009) まちの活性化・都市デザイン競技(宇都宮市長特別賞)
●右：第21回(2004) 住まい・まちづくり設計競技(住宅生産振興財団会長賞)

我が国の都市景観は魅力に乏しい。それは都市環境がアメニティ(Amenity)の概念「然るべきところに然るべきものがある(英:W・ホルフォード卿)」状態になっていないこと

にある。自然との共生から生まれた日本のアメニティ概念を現代に再生するには、建築個々と周辺環境の関係を《環境デザイン》という包括的概念で捕らえなおす必要がある。



藤浪 洋介 Fujinami Yousuke

公認会計士・税理士

藤浪会計事務所
東京都港区虎ノ門3-8-21 虎ノ門33森ビル(〒105-0001)
TEL. 03-5473-1710 / FAX. 03-5473-1711
E-mail. fujinami@fao.gr.jp
URL http://www.fao.gr.jp

株式会社 日本設計
東京都新宿区西新宿4-5-22 新宿アイランドタワー(〒163-1329)
TEL. 03-5325-8565(前) / FAX. 03-5325-8874
E-mail. abe-t@nihonsekkei.co.jp

千代田区・中央区で容積率移転を活用する計画が多数ありますが、その税務相談を請ける中で、余剰容積率を金銭に置き換えるだけの議論に疑問を感じています。都市計

画法で定めた容積率を住民で取引することを容認すること自体が都市計画法の矛盾とも言えるように思います。容積率取引の是非を含め、都市計画法見直しの議論に景観・

環境が少ないように思います。
※専門分野補足
●法定再開発事業の税務コンサルタントを主力に行っています。同審査員も。
●管理組合の会計顧問、審査員。



森 一郎 Mori Ichiro

建築デザイン


株式会社 デザインの森
神奈川県横浜市中区本町6-52 横浜エクセレントVII(〒231-0005)
TEL. 045-228-1255 / FAX. 045-228-1250
E-mail. imori@td5.so-net.ne.jp
URL http://www.demori.co.jp

株式会社 石嶋設計室
東京都江東区森下1-5-11-5F(〒135-0004)
TEL. 03-6659-9981 / FAX. 03-6659-9982
E-mail. info@ecg-man.com
URL http://ecg-man.com

建築にホスピタリティを追求して半世紀——日本設計での38年間と(株)デザインの森を設立後の10年、計48年間デザインしたそのすべてにホスピタブル・アーキテクト精神。

●左：森のチャペル—国産唐松材の積層材木造 2001年竣工
●中：東京ベイ舞浜ホテル—東京デズニーリゾート428室 2007年開業
●右：戸塚再開発事業・相鉄フレックス戸塚 2009年開業





山内 昭夫 Yamanouchi Akio

土木設計

株式会社 日本ランドデザイン
東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー29階(〒163-1329)
TEL. 03-3346-2233 / FAX. 03-3346-2131
E-mail. yamanouchi@landdesign.co.jp
URL http://www.landdesign.co.jp

株式会社 プランニングネットワーク
東京都北区田端新町3-14-6(〒114-0012)
TEL. 03-3810-9381 / FAX. 03-3810-9384
E-mail. itoh@pn-planet.co.jp
URL http://www.pn-planet.co.jp

土木構造物に景観要素が求められるようになったのは近年のことです。これは大変喜ばしいことです。土木構造物における景観とは、自然との調和につきると考えていま

す。自然と土木構造物との調和は時間の経過とともに変化します。時間の経過とともに自然と調和し、すばらしい景観となるもの、また、時間が経つにつれ不調和となり、

見苦しい景観となるものがあります。私は多くの住宅団地や道路等の土木構造物の設計をしてきました。これらが自然と調和していくか心配です。



横川 昇二 Yokokawa Shoji

環境デザイン・パブリックデザイン

株式会社 横川環境デザイン事務所
東京都大田区蒲田5-44-14-301(〒144-0052)
TEL. 03-3738-9627
E-mail. yeedo.yokokawa@mvd.biglobe.ne.jp

株式会社 日本設計
東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30階(〒163-0430)
TEL. 03-3348-0313 / FAX. 03-3344-6961
E-mail. itami-m@nihonsekkei.co.jp
URL http://www.nihonsekkei.co.jp

環境デザインを通して道づくりや橋づくり、街づくりにかかわり、人・物・場の関係とそのあり方を探り、「場の変換」や「景観の創出」を念頭に置き活動してきた。しかし、

景観法施行後、快適で美しい環境や景観づくりの進展は極めて遅く、「パブリックデザイン」の重要性を再認識し各方面に訴えていきたい。




●左：上野駅前ペDESTリアンデッキ ●中：環境色彩カラスケール ●右：公共の色

わが国の景観は、これまで経済優先の中で混乱し、地方では佇まいを失った市街地が社会問題化しています。とりわけ建築や土木施設などの形態・色彩やその大きさは、全体的景観を阻害する要素も多く見られます。また、拡大や散逸を続けてきた都市をコンパクトなものに戻すためにも、環境に配慮し、街の魅力を掘り起こして活性化を図ることが必要です。それには住民や行政、および民間企業とともに連携して、第三者的な市民感覚で景観デザイン活動を支援し、広く社会

に貢献する団体が必要です。「NPO 法人 景観デザイン支援機構」は、まちづくりの経験や実績を多く持つ専門家が主たる構成員です。この会員プロフィールはこうした活動に役立つメンバーをご紹介しますことを目的としています。(曾根 幸一)

(五十音順)



安部 貞司 Abe Teiji

建築設計, 景観まちづくり

株式会社 日本設計
東京都新宿区西新宿4-5-22 新宿アイランドタワー(〒163-1329)
TEL. 03-5325-8565(前) / FAX. 03-5325-8874
E-mail. abe-t@nihonsekkei.co.jp


株式会社 石嶋設計室
東京都江東区森下1-5-11-5F(〒135-0004)
TEL. 03-6659-9981 / FAX. 03-6659-9982
E-mail. info@ecg-man.com
URL http://ecg-man.com

まちを豊かに育むためには、その町の資源や個性、課題に目をむけてまちに関わる人々と意識をつなげていくことが大切です。そのため、地域に関わる人々が分野を越えてつ

ながり、自分たちのまちの個性、事象を共有することが重要ではないでしょうか。

住んでいる府中市では地域文化の育成を探り、住環境の質の向上、魅力的なまち、住み

やすい町、などをテーマとして、市民ワークショップ、勉強会やシンポジウムを行って建築文化や景観形成、まちづくりに知恵を出しています。



石嶋 寿和 Ishijima Hisakazu


建築設計・都市デザイン

株式会社 デザインの森
神奈川県横浜市中区本町6-52 横浜エクセレントVII(〒231-0005)
TEL. 045-228-1255 / FAX. 045-228-1250
E-mail. imori@td5.so-net.ne.jp
URL http://www.demori.co.jp


株式会社 日本設計
東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30階(〒163-0430)
TEL. 03-3348-0313 / FAX. 03-3344-6961
E-mail. itami-m@nihonsekkei.co.jp
URL http://www.nihonsekkei.co.jp

独立してまもない頃、100㎡弱の小さな保育所の内装設計の依頼を請けた。以来現在に至るまで、保育所、認定こども園、事業所内託児所、幼稚園、共同住宅のキッズルーム等、

新築、用途変更を問わず子どもの建築を多く手がけてきた。これまで培ってきた経験や知識を都市デザインやまちづくりの領域まで広げていくことがこれからの目標である。



●左：砂場・ひなた保育園 ●右：中庭・東大駒場むくのき保育園



伊丹 勝 Itami Masaru

市街地整備, 再開発事業推進

株式会社 日本ランドデザイン
東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー29階(〒163-1329)
TEL. 03-3346-2233 / FAX. 03-3346-2131
E-mail. yamanouchi@landdesign.co.jp
URL http://www.landdesign.co.jp

株式会社 プランニングネットワーク
東京都北区田端新町3-14-6(〒114-0012)
TEL. 03-3810-9381 / FAX. 03-3810-9384
E-mail. itoh@pn-planet.co.jp
URL http://www.pn-planet.co.jp


・20才前半は都市と建築の中間領域の設計を志向。三千分の一から原寸まで一応経験。

・20才後半に都市再開発を知り「これぞライフワーク」と興奮して大勉強する。

・30才代半ばに再開発事業推進の現場を経験。ものづくり+事業の構築+政治+経済+街場人間と会社人間など、多種多様な課題への対応に奔走し、楽しみ、満喫する。

・50才半ばから会社の経営層に参画。フィジカル分野であれば「拡大と深化」を推進。

・かつて輝いていた「都市計画」や「再開発」が悪者に。再興の切り口は景観か？



伊藤 登 Ito Noboru

ランドスケープアーキテクト

株式会社 横川環境デザイン事務所
東京都大田区蒲田5-44-14-301(〒144-0052)
TEL. 03-3738-9627
E-mail. yeedo.yokokawa@mvd.biglobe.ne.jp


株式会社 プランニングネットワーク
東京都北区田端新町3-14-6(〒114-0012)
TEL. 03-3810-9381 / FAX. 03-3810-9384
E-mail. itoh@pn-planet.co.jp
URL http://www.pn-planet.co.jp

〔計画・地域づくり〕

郡上市景観計画・景観条例案策定(2010)
桑折地区地域づくり調査委託(福島県2010)
奥州街道街並み景観形成検討調査(桑折町2010)

〔設計〕

八幡地区歩行者サイン実施設計(郡上市2010)
田ノ沢地区堤防実施設計業務(国交省2008)
渡利地区水辺の楽校デザイン(国交省1995)



●渡利地区水辺の楽校

遠藤 勝勲 Endo Shokan

建築家

遠藤勝勲建築設計室
東京都中野区中野5-24-20 タカラビル305 (〒164-0001)
TEL. 03-3319-0493 / FAX. 03-3319-0493
E-mail. shknd@yahoo.co.jp

建築現場で職人たちと話が出来る建築家を一人でも多く育てようと毎日頑張っています。それは手で描くスケッチ・特に現寸スケッチを職人達の前で描ける建築家になる

事です。又、若い人が常に自然環境を観察し続ける事が出来る様になると素晴らしい建築が完成し、新しい建築家が生まれると思います。それを楽しみに活動しています。

●左：実践して完成した、横浜港大さん橋国際客船ターミナル

小澤 尚 Ozawa Hisashi

空間デザイン領域・建築・地区デザイン

宮城大学事業構想学部
宮城県黒川郡大和町学苑1-1 (〒981-3271)
TEL. 022-377-8354 / FAX. 022-377-8390
E-mail. ozawah@myu.ac.jp

学生時代から、自治や合意による土地の運用や、街区計画、歴史をふまえた計画、街並み形成などに関心を持ち、独立し事務所を構えて実践してきた。大学教員となって

からは、合意形成、共同出資等による「環境再生としての運河下の地下基盤構造」や「メモリアルな広場づくり」の事業の可能性も探り、日本橋橋詰で毎土日昼に、音楽と

ともに案の展示とヒアリングを行っている。

●左：江戸橋インター付近現況 ●右：江戸橋インター地下基盤整備想定

工藤 安代 Kudo Yasuyo

都市アートプランニング

NPO法人アート＆ソサイエティ研究センター
東京都千代田区外神田6-11-14, 33317-ツチヨギ-311b (〒101-0021)
TEL. 090-7719-9972
E-mail. kudo@art-society.com
URL http://www.art-society.com

人々の日常環境の中で、文化芸術に接する経験を創り出す手法に興味を抱いている。大文字の“ART”だけではなく、生活の多様なシーンに結びつくアートのあり方を

求める活動を続けている。

●左：『広島アートクロッシング 2001』小澤剛作
●中：Public Art Magazine Vol.2
●右：『上野仲町商店街』日比野克彦作

倉田 直道 Kurata Naomichi

都市デザイン

株式会社 アーバン・ハウス都市建築研究所、工学院大学
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-2-15 サンパークハイツ6F (〒151-0051)
TEL. 03-3354-3175 / FAX. 03-3354-3627
E-mail. nkurata@urban-house.co.jp
URL http://www.urban-house.co.jp

街を歩くことの意味を考えることは、ライフスタイルさらにはクオリティ・オブ・ライフとは何かを問い直すことに繋がるのではないだろうか。都市における豊かなパブ

リックライフを創出するパブリックスペースのあり方について考えている。

●左：守谷駅前広場
●右：島田市おび通り

桑名 寛一 Kuwana Kanichi

建築設計

株式会社 日本設計 中部支社
愛知県名古屋市中区錦1-11-11 名古屋インターシティ (〒460-0003)
TEL. 052-211-3651 / FAX. 052-201-8480
E-mail. kuwana-k@nihonsekkei.co.jp
URL http://www.nihonsekkei.co.jp

人口減少社会に直面した今、地方の町は何処に行くのでしょうか。その答えを、「歴史・文化・自然の文脈のどこかに置き忘れた価値を見出すこと」から始めようとするのは迂遠な試みで

しょうか。しなやかな感性としたたかな意志をもつ何人かの友人と旅であり仕事でもあるような試みをこれからも続けたいと思います。

●左：「ひぐらしの里」再開発、今は「サンマークシティ日暮里」
●右：勤務先の名古屋インターシティ エントランス

河野 進 Kono Susumu

建築設計・まちづくり

株式会社 河野進設計事務所
東京都杉並区荻窪5-13-6 丸新マンション405 (〒167-0052)
TEL. 03-5397-8671 / FAX. 03-5397-8672
E-mail. skono@kono-archi.com
URL http://www.kono-archi.com

左；我家の前は巾4mの行止まり2項道路。路の両側に四季折々、色んな花が咲き競う。誰かが種を蒔いたのか鳥が運んできた種か、ひなげし、彼岸花、水引草、名も知らぬ花。

舗装費を出すとの区の出出を5軒の話し合いで断り、小さな共有空間と緑の景観が残った。右；まちと住まいを樹木でやんわりと仕切り、お隣さん同士を緑で繋ぐ／西荻窪Y邸

●左：行止まり路地のささやかな共有空間 ●右：雑木に囲まれたY邸
●中：ピラカンサスの赤い実

古俣 久雄 Komata Hisao

病院事務長

医療法人社団仁寿会 中村病院
東京都墨田区八広2-1-1 (〒131-0041)
TEL. 03-3612-7131 / FAX. 03-3619-1100
E-mail. komata@jinjukai.or.jp
URL http://www.jinjukai.or.jp

現職の前には、社会開発総合研究所で広域圏計画や地域振興等の調査研究を行っていました。施設整備としては、民間活力を活用した埼玉ソニックシティや幕張メッセの

コンベ選定事務所に携わり事業の一端を担えたことが今でも心に残ります。現在は、第二の働き場所、中村病院において、京島地区の町屋の変貌や東京スカイツリーの成

長を日々見ながら執務を行っています。下町の色合いが強く残る地域と高齢の患者さんで混みあう病院、これも一つの都市の景観、生きざまでしょうか？

櫻井 直樹 Sakurai Naoki

建築・景観デザイン

株式会社 ユージーン都市・デザイン研究所
埼玉県三郷市さつき平1-3-1-106 (〒341-0021)
TEL. 048-957-2787 / FAX. 048-957-2787
E-mail. eugene.co@cube.ocn.ne.jp

景観は、制度や法律の枠組み、土木・建築の様式・デザイン等によって大きく左右されますが、とりわけ自然の景観要素である水や石・緑による影響は極めて大きいもの

です。心の癒される景観には水や緑と建築空間の調和は欠かせません。そんな都市景観のデザインに少しでも繋がるような仕事をしていきたいものです。

実石 欣哉 Jitsuishi Kinya

塗装・建築・とび・防水 設計・施工

平岩塗装 株式会社
東京都大田区千鳥2-6-17 (〒146-0083)
TEL. 03-3759-9198 / FAX. 03-3759-9164
E-mail. jitsuishi@hiraiwa-toso.co.jp
URL http://www.hiraiwa-toso.co.jp

道路施設 そのうち橋は、社会経済活動をささえる道路網を構成し、国民の日常生活や産業活動に密接に関係した重要な構造物である。既設橋に対しては、可能な限り延

命化を行うとともに景観に配慮した色彩を選択するように管理者に提言して、インフラ整備に努めている。

●左：東京羽田国際空港D滑走路（平成22年8月竣工）
●右：横浜税関（平成16年3月竣工）

高谷 時彦 Takatani Tokihiko

建築・都市デザイン

株式会社 設計計画高谷時彦事務所
東京都文京区千石4-37-4 (〒112-0011)
TEL. 03-3942-5191 / FAX. 03-3942-5192
E-mail. takatani@koeki-u.ac.jp
URL http://www15.ocn.ne.jp/~takatani/

時間とともに蓄積され培われてきた地域性、歴史性を継承しながら、それでいて時代の先端的な部分も表現されている建築や街なみを作り出していきたい。

●左：藤沢周平記念館では地域に多く見られる鞘堂形式を採用した
●右：まちなかキネマは古い木造絹織物工場を映画館に再生した